



普通高等教育“十一五”国家级规划教材
新世纪高等学校日语专业本科生系列教材

总主编 谭晶华

日语综合教程

第七册

季林根 编著

前瞻性与创新性并重：
符合21世纪日语人才培养需要，引领中国日语教学潮流。

代表性与权威性兼顾：
全国20余所高校参与编写，日语界近百位专家精心奉献。

系统性与呼应性结合：
涵盖高校日语专业各类课程，形成相互呼应的有机整体。

上海外语教育出版社
SHANGHAI FOREIGN LANGUAGE EDUCATION PRESS





普通高等教育“十一五”国家级规划教材
新世纪高等学校日语专业本科生系列教材

总主编 谭晶华

普通高等教育“十一五”国家级规划教材

1105 上海外语教育出版社 2006 年 1 月

(普通高等教育“十一五”国家级规划教材)

ISBN 7-309-05117-7 定价: 35.00 元

日语综合教程

第七册

季林根 编著

图书在版编目(CIP)数据 日语综合教程 第7册 / 季林根编著. —上海: 上海外语教育出版社, 2011
(新世纪高等学校日语专业本科生系列教材)

日语综合教程. 第7册 / 季林根编著.

—上海: 上海外语教育出版社, 2011

(新世纪高等学校日语专业本科生系列教材)

ISBN 978-7-5446-2408-4

I. ①日… II. ①季… III. ①日语—高等学校—教材 IV. ①H36

中国版本图书馆CIP数据核字(2011)第130710号

出版发行: 上海外语教育出版社

(上海外国语大学内) 邮编: 200083

电 话: 021-65425300 (总机)

电子邮箱: bookinfo@sflep.com.cn

网 址: <http://www.sflep.com.cn> <http://www.sflep.com>

责任编辑: 江龙娣

印 刷: 上海华业装璜印刷厂有限公司

开 本: 787×1092 1/16 印张 13.75 插页 4 字数 328千字

版 次: 2011年7月第1版 2011年7月第1次印刷

印 数: 5 000 册

书 号: ISBN 978-7-5446-2408-4 / H · 1111

定 价: 29.00 元 (附光盘)

本版图书如有印装质量问题, 可向本社调换

上海外语教育出版社
SHANGHAI FOREIGN LANGUAGE EDUCATION PRESS

新世纪高等学校日语专业本科生系列教材编委会

总主编:

谭晶华

编委: (以姓氏笔画为序)

王 勇	浙江工商大学
王健宜	南开大学
叶 琳	南京大学
皮细庚	上海外国语大学
许慈惠	上海外国语大学
纪太平	厦门大学
杨诒人	广东外语外贸大学
严安生	北京外国语大学
吴 侃	同济大学
吴大纲	上海外国语大学
陈 岩	大连外国语学院
张 威	清华大学
陆留弟	华东师范大学
庞志春	复旦大学
胡振平	解放军外国语学院
修 刚	天津外国语学院
洪栖川	东北师范大学
高 宁	华东师范大学
高文汉	山东大学
宿久高	吉林大学
谭晶华	上海外国语大学

总序

21 世纪是一个国际化的高科技时代，也是一个由工业社会进一步向信息社会转化的时代。科学技术的高速发展、新兴交叉学科的涌现、人文文化与科学技术间的相互渗透和融合、社会的信息化以及知识、信息传播技术的日新月异加强了世界各国文化的交流、碰撞与合作。要想在激烈的世界竞争中立于不败之地，就要占领人才培养的制高点，培养出世界一流的高素质、高水平人才。

由于社会对外语人才的需求已呈多元化趋势，以往那种单一外语专业的基础技能型人才受到挑战。今后我们仍然需要培养《源氏物语》的专门研究家，但是高校外语专业的教学必须从过去的“经院式”人才培养模式向宽口径、应用性、复合型人才培养模式转化。社会要的不光是懂外语的毕业生，还需要思维敏捷、心理健康、知识面广博、综合能力强的精通外语的专门人才。

我国的外语教学界已充分认识到，对国家建设发展急需的外语专业人才加大培养力度，提高其能力和素质是一项迫在眉睫的任务。随着我国日语专业教学点设置的不断增加和招生规模的逐年扩大，日语专业本科生的教学改革、学科建设及教材出版亦取得很大的成绩，各地先后出版了一批在全国有影响的优秀教材。正因为社会对日语人才的培养提出了更高的标准，同时对日语学科的建设也提出了新的要求，因此，日语本科生教材的编写和出版也应该顺应潮流，开拓创新。

我国外语教材和图书出版的基地、领头羊之一的上海外语教育出版社(外教社)以高度的责任感和高瞻远瞩的视野，在充分调研的基础上，抓住机遇，于2003年8月邀请了全国主要外语院校和教育部重点综合大学日语专业的近20位专家在上海召开了“全国高等学校日语专业本科生系列教材编写委员会会议”。代表们完全认同编写“新世纪高等学校日语专业本科生系列教材”的必要性、可行性及紧迫性，并对编写立意、教材构建、编写审校程序提出了许多积极、中肯的建议和要求。之后，外教社又多次召开全国及上海地区专家学者会议，分头撰写编写大纲，确定教材类别、项目，讨论审核样稿。经过两年多的努力，终于迎来了第一批书稿的付梓。

本套教材共分语言知识、语言技能、语言学与文学、语言学与文化、语言学与翻译(中日对译)、人文科学、经济贸易、测试与教学法等若干个板块，可以说几乎涵盖了当前我国日语专业所开设的全部课程。编写内容根据因材施教的原

则，深入浅出，反映各个学科领域的最新研究成果；编写体例采用国家最新有关标准，力求科学、严谨；编写思想贯彻了在帮助学生打下扎实的语言基本功的基础上，培养学生分析和解决问题能力的原则，全面提高学生的人文、科学素养，养成健康向上的人生观，成为合格的外语专门人才。

本套教材编写委员会云集了我国日语界学者专家，其中不少是高等学校外语专业指导委员会的委员。每一种教材均由编写委员会的专家们仔细审阅后确定，有的是从数种候选教材中遴选，总体上代表了中国日语教材学发展的方向和水平。我们相信，外教社这套“新世纪高等学校日语专业本科生系列教材”的编写和出版，一定会促进和提高我国日语专业本科生教学质量的稳步提高，其前瞻性、先进性和创新性也将为日语教材的编写拓展更为广阔的视野。

谭晶华

上海外国语大学常务副校长

前言

日语专业教学大纲中指出：教材是师生在教学活动中的依据，选用或编写合适的教材是搞好教学的保证。教材的题材要广泛，并且比例适当，要注重实践性，适当编写包括日本社会、文化、风俗习惯以及科普常识方面的文章。语言要规范、生动、丰富。文章体裁要多样化，掌握好教材的难度。

日语专业高年级教材在过去 20 多年间出过少量的几套，由于当时日语专业高年级教学大纲尚未制定，现在看来，已出的教材与教学大纲的规定尚有一些距离，也不很符合教学大纲的规定。近年来，随着我国高等教育走向大众化，设置日语本科专业的学校越来越多，各校都急切地期待着高质量的日语专业高年级教材更早更多地问世，以备各大学择优使用。

本套日语专业高年级教材作为本科高年级综合日语课的主干教材，力图贯彻教学大纲规定的要求，编出符合目前日语专业现状的适用教材，既注重语言知识的传授、语言技能的训练，又顾及日本社会、文化的介绍和理解。本套教材的框架设计、布局结构将有助于提高学生的思维创造和分析鉴赏能力。

本套教材经申报，已批准为教育部“十五”重点教材建设项目，谭晶华教授为总主编，第五册由陆静华教授编写，第六册由陈小芬教授编写，第七册由季林根教授编写，第八册由皮细庚教授编写，编成后的油印教材均经过两轮以上的使用，并广泛听取了中、外教师的意见，几经修改而成。

愿本套教材的推出为中国日语专业本科教育更上一层楼贡献绵薄之力，相信我国的日语本科专业建设一定会有更蓬勃的发展。

总主编

2007 年 6 月

编者的话

《日语综合教程》(第五~第八册)的编写工作启动于2002年,第七册于2003年底开始编写,经过两轮的试用和多次的修改,历时3年多的时间,终于和大家见面了。编者衷心地希望本教材能得到广大日语教师和日语学习者的喜爱。

本教材为高等学校日语专业高年级阶段精读课教材,供四年级上学期使用,同时也可供具有一定日语基础的自学者使用。

参照《高等院校日语专业高年级阶段教学大纲》的要求,编者在选材时充分注意文章的可读性和题材、体裁的多样性,内容上尽可能地选用一些有一定思想内容、可读性强、语言表达规范的文章。题材方面涉及日本文化、语言文学、伦理道德、现代社会和科学等不同领域。体裁方面有评论、随笔、小说、报道性的科普文章,为了让学生能接触和了解一些文言文方面的基础知识,编者还选用了颇具代表性的古典作品,以填补四年级学生对日本古典和文言语法缺乏了解的空白。

考虑到四年级学生已经具备了比较扎实的语言基本功和较高的日语理解能力,所以第七册的编写指导思想立足于培养学生独立思考、独立研究、独立解决问题的能力。希望通过本册教材的学习,不仅使学生的日语语言基础能更上一层楼,而且能进一步提高学生的理解能力、分析能力和解决问题的能力,对部分词语的社会文化背景和日本的风土人情有更深入的了解。因此,编者建议教师在使用本教材时,要区别于第五、第六册,把授课的重点放在对课文内容的讲解上,使学生对课文的内容、作者的写作意图、文章中所涉及的人物心理、社会背景等方面有更全面的了解。

本教材共分10课,每课由课文、注释、单词表、预习指南、语言与表达、练习和课外阅读等七个部分构成。其中,“语言与表达”主要用来说明该课出现的语言现象,包括语法、句型、词汇以及某些词组和惯用语。其中大部分内容是在基础阶段尚未出现过的,通过这些内容的学习,可以使学生的日语理解和综合运用能力得到进一步的巩固和提高。

各课练习大致可以分为两大类。一类是围绕课文编写的练习;另一类是为了

提高学生的日语综合运用能力而编写的练习。练习中设有口头问答题，旨在检查学生对课文内容的理解情况，同时也为学生提供了口语综合表达的机会。编者希望教师在教学过程中能够重视口头问答题，同时也希望学生能积极配合教师，以提高自己的口语综合表达能力。“课外阅读”中选用的文章大都涉及现代社会、科技和生活等方面，目的是为了开拓学生的知识面，丰富学生的新词汇量，这样不仅可以提高学生阅读同类文章的能力，而且可以进一步了解现代日本。

在构思本教材的编写原则和体系时，主要参考了原上海外国语大学教授陈生保先生主编的《日语》第七册。选材时，曾得到原上海外国语大学日本籍专家山崎先生、日本文化经济学院教授周平先生的指点，熊本开新学园校长水谷茂先生以及许多日本朋友也为我提供了大量的资料。在编写、试用和修改的过程中，上海外国语大学的有关领导和日本文化经济学院的领导也给予了很多关心和支持；上海外国语大学日本籍专家稻森信昭先生、本学院的戴宝玉老师、高洁老师、张建华老师、韩宇老师、毛文伟老师等多位同仁都给予了我极大的帮助，在本教材即将问世之际，谨向所有帮助过我的前辈和同仁表示衷心的感谢。

本教材采用了馬場あき子、三浦綾子、堀辰雄、高階秀爾、井上ひさし、土井宏文、堀場清子、辻邦生、酒井順子、宮沢和史、内山節、池澤夏樹、志賀直哉、野口悠紀雄、寺田寅彦、橘由步、川田順造、片桐圭子等各位先生和女士的作品或文章，借此机会一并表示感谢。

由于水平有限和时间仓促，难免存在缺点和错误，敬请各位批评指正。

最后，向支持本教材编写工作的上海外语教育出版社和责任编辑江龙娣女士表示衷心的感谢。

编者

于2007年6月

目次

第1課 二つの川のほとりで..... 1

- ◆ 本文
- ◆ 注釈
- ◆ 新しい言葉
- ◆ 学習の手引き
- ◆ 言葉と表現
 - 一、いとしむ(愛しむ)
 - 二、見る影もない
 - 三、～(の)連続
- ◆ 練習
- ◆ 読み物 北海道の根っこ

第2課 辛夷の花..... 17

- ◆ 本文
- ◆ 注釈
- ◆ 新しい言葉
- ◆ 学習の手引き
- ◆ 言葉と表現
 - 一、さし
 - 二、～からして
 - 三、とんだ
 - 四、体言は(も)+同一体言で
 - 五、～でもするように
 - 六、なんぞ
 - 七、～はずみに(で)
- ◆ 練習
- ◆ 読み物 「美しさの発見」について

第3課 ナイン..... 34

- ◆ 本文
- ◆ 注釈
- ◆ 新しい言葉
- ◆ 学習の手引き

◆ 言葉と表現

一、～とでもいう(ような/ように)

二、口(くち)

三、慣用句

1. 膝を進める

2. 性根を据える

3. 気がある

4. 眉に唾をつける

5. ひと肌ぬぐ

6. ねんごろになる

7. 一目おく

◆ 練習

◆ 読み物 日本のソフトビジネス

第4課

わたしの夏——1945年・広島..... 57

◆ 本文

◆ 注釈

◆ 新しい言葉

◆ 学習の手引き

◆ 言葉と表現

一、声を限りに

二、百も承知

三、顔がゆがむ

四、～だろうに

五、～といわず、～といわず

六、さぞかし～だろう(かもしれない)～

◆ 練習

◆ 読み物 初日影のなかで

第5課

みやこ人と都会人..... 75

◆ 本文

◆ 注釈

◆ 新しい言葉

◆ 学習の手引き

◆ 言葉と表現

一、演出する

二、ぱっとしない

三、ためを張る

四、かくして

五、～てはならじ

六、～まくる

◆ 練習

◆ 読み物 雄弁な寡黙

第6課

自然と人間..... 98

◆ 本文

◆ 注釈

◆ 新しい言葉

◆ 学習の手引き

◆ 言葉と表現

一、気がしてならない

二、動詞連体形+かのように

三、動詞連体形+ことなき+体言

四、なり(に)

◆ 練習

◆ 読み物 人は山に向かう

第7課

城の崎にて..... 116

◆ 本文

◆ 注釈

◆ 新しい言葉

◆ 学習の手引き

◆ 言葉と表現

一、動詞連用形+はしまいか

二、おそう(襲う)

三、～に相違ない

四、～かしら

五、そわそわ

六、気をおこす

七、気をさす

◆ 練習

◆ 読み物 接待

第8課

案内者..... 136

◆ 本文

◆ 注釈

◆ 新しい言葉

◆ 学習の手引き

- ◆ 言葉と表現
 - 一、気に向くままに
 - 二、巢をくう(すを構う)
 - 三、それがために
 - 四、まがりなりにでも
 - 五、動詞連用形+どおしに+同一動詞
 - 六、火をつける
 - 七、ことによると
- ◆ 練習
- ◆ 読み物 別れを決意する妻たちの言い分

第9課 手作り幻想 156

- ◆ 本文
- ◆ 注釈
- ◆ 新しい言葉
- ◆ 学習の手引き
- ◆ 言葉と表現
 - 一、いたちごっこ
 - 二、富める
 - 三、～ようでいて
 - 四、動詞未然形+ずして
- ◆ 練習
- ◆ 読み物 独居老人をITが見守る

第10課 徒然草 176

- ◆ 本文(序段、第15段、第18段、第51段、第52段、第109段)
- ◆ 語釈(序段、第15段、第18段、第51段、第52段、第109段)
- ◆ 注釈
- ◆ 練習
- ◆ 読み物 「徒然草」について

文語活用表(動詞・形容詞・形容動詞・助動詞) 193

新しい言葉リスト 196

二つの川のほとりで

本文

■ 馬場あき子

坂を下ると小さな川にぶつかる。この川はすぐその下手で麻生川に合流する片平川である。合流地点には小橋が架かっている。この小橋の上に立つと、夏は蛍が顔にぶつかるほど飛んでいたという名所である。ほんの、30年ほど前のことだ。今はフェンスを高く張っても、空き瓶とか、空き缶、発泡スチロールの箱や、ビニール袋などが絶えず投げ込まれ、ある猥雑な汚らしさを見せている。



麻生川

川の歴史は長いが、滅びは早い。私がこの川と出会ったのは18年ほど前のことだが、そのころは澄みとおった水の美しさが印象的だった。少し川上に草木寺という寺があった。戦後、信州からここに移り住んだ染色家の山崎青樹さんが、草木染めの美しい布を染め出したところだ。片平川のほとりは関東有数のわき水地帯で、多摩丘陵の雑木山が澄みとおった地下水を豊かに保っている。あふれ出た水は小さな野川をなして、田んぼの間を子守歌のようなやさしい音色をたてて流れていた。草木染めはそんなきれいな井泉水で染め、さらされていたのだ。しかし私が片平に住み始めたころ、山崎さんはもうこの地を捨てて群馬県の烏川のほとりに移って行かれた。より豊かな、より清冽な水の辺を求められたのだろう。

私はこの山崎さんを烏川のほとりにお訪ねしたことがある。いろいろな話をうかがった。例えば紫草は種子をまいて草から育て、月夜に白い可憐な花をいとしみ、そうやって紫根は育つものだということや、1反の布を桃色に

染めるためにはどれだけの桃の木が必要かとか、紅花染めには何段階の染めがあるか、蘇芳や荊安の場合はどうかなど、思い出せないほどたくさんのお話の間にさまざまな草木染めの絹を見せていただいた。どれも色鮮やかで光沢があり、平安朝の人々が思いがけない鮮麗な色彩に彩られていたことに驚いたが、その美しさの源には美しい水があったのだった。私は今もその時のことを時々思い出す。そして、20年ほどの間に、見るかげもなくなっていった片平川の、平べったい川底の汚れを思い、そこに飽くなく物を投げ込む人のことを思った。

この片平川を併せて、少し長い流域をもつ麻生川の場合はどうだろう。この川も何年か前までは防護措置としてのフェンスは張られていなかったが、私はそれを決して行政の遅れなどとは思ってはいなかった。むしろ、この土手に生い茂る真葛の強い生命力にたじろぎ、何種類ものすすきの、さまざまに輝く穂波に陶醉し、密生した野草の宝庫のような草むらを楽しんでいた。

ところがこの川もまた、あっという間に人工の川底に改造され、高いフェンスが張られ、空き缶や傘やさまざまなものが、フェンス越しに投げ込まれるようになった。特色的なのは、投げ込まれるものの中に自転車があることである。川沿いの道に沿って通勤や通学のために必要な自転車がびっしりと立ち並ぶのを、怒っている誰かがいるのだろう。多い時は4、5台も投げ込まれる。台風などで増水したあとは、自転車に醜い猥雑なものがいっぱい引っかけ、劣悪不快な川の光景となる。

麻生川が大きく湾曲する上には橋が架され、街道が通っている。橋の上に立って、自転車や空き缶が投げ込まれている川を見ていると、いら立ちやすく退廃した現代そのものが見えてくる。だが、振り返って、この橋の上手を見ると、これはまた、思いがけず豪華な桜並木なのだ。昔の人は、こうした粋な方法で川土手を守ってきたのである。桜の季節になると、数日だけこの川の様相は一変する。朝桜の清婉、昼の爛漫、夜桜の妖艶を心ゆくまで楽しむことができる桜並木なのである。中でも夜桜のころは美しい。川の汚れも見えないし、花見の人が出ているわけでもなく、ただ桜だけがいしんと静まって、街道の排気ガスのかすかな臭気の中にさびしうに微笑んでいる。川底に折れた翼を休めて横たわっている自転車と、無言の対話を交わしているかもしれない。世の中はもう、とても悪い状況になってしまっているのだ。

この、醜い、情けない、哀れな麻生川に、ある年、ふと鴨が2、3羽飛来した。初めは何かの間違いだろうと思った。鴨も毎日には来ない。ヘドロ状の滓の浮かぶ川の中州に上って、水を眺めているような時もあった。賢い鴨は、どうも日を選んでやってくる。土曜・日曜・雨のあと、つまり、工業廃水が少なく、水がきれいで、餌が少しでも多い日をねらったようにやってくる。そ

して、驚いたことに、ついにこの川でひなを育てだした。桜が咲いても帰らず、懸命にひなに餌のあるところを教えているようだ。けなげなかわいい鴨の子が、親を中心に逆立ちをしては川底の藻をあさり、中州や川べりに憩う姿が見られるようになった。

かわいいおしりを上に向けて、ほとんど逆立ちの連続で、餌をあさっても、餌は極めて乏しく、鴨たちの空腹は一日中癒えない様子である。かわいいかわいいと道行く人も立ち止まって眺めてはいるが、そのうちいかにも気の毒な、わびしい思いが胸にこみ上げてくる。人目を盗んでパンくずを投げ入れている人もいるが、川に食物を投棄することは禁じられているはずで、鴨に餌を提供することはできないきまりなのである。あの鴨は育つのだろうか、それは折々の話題だった。

鴨がひなと一緒に浮かんでいる光景は、あの空き缶や自転車の投棄に対する歯止めになりはしないだろうか。それをみんなが願っていた。そして、そのころから、静かに不況の波が押し寄せ始め、川の水は澄明度を増してくるようになる。洗濯の泡のような無気味な泡はもう浮かばない。今年は鴨の種類も、尾長鴨が増え、真鴨も交えて、多い日は30羽を越える時もある。夕方になると、リーダーが率いて思い思いのねぐらに帰ってゆくようだ。この間は、夕やみの底から鴨の鳴き声が聞こえてきた。またひなが生まれるかもしれない。現代の鴨はこんな過酷な環境にも住み着き始めたが、人間もまた繁栄に飽いて、何かに気がつき始めた時期なのかもしれない。そうであってほしいものだ。

『国語展望 第92号』(1993年刊)による

筆者紹介

馬場あき子(ばばあきこ)

1928年東京生れ。本名は岩田暁子。歌人として活躍すると同時に、古典文学や能楽に関する評論家として、また繊細な感覚の随筆家として活動を展開している。主な作品には、歌集『飛花抄』『桜花伝承』『馬場あき子歌集』、評論『式子内親王』『鬼の研究』などがある。1993年『阿古父』で読売文学賞受賞。

注 釈

① 麻生川(あそがわ)

神奈川県川崎市麻生区の中央を流れ、鶴見川に注ぐ川。

- ② 片平川（かたひらがわ）
麻生区を南東に流れ、麻生川に注ぐ川。
- ③ 草木寺（くさきでら）
長野県にあった尼寺を1960年に移築し、染色工房としたもの。
- ④ 信州（しんしゅう）
信濃の国の別称で、現在の長野県。
- ⑤ 山崎青樹（やまざきせいじゅ）
染色家。1956年、群馬県高崎市に草木染研究所を開設し、草木染めの研究と創作を続けている。
- ⑥ 草木染め（くさきぞめ） 植物印染
草や木から採取した材料を用いて、繊維に色を染め付けること。
- ⑦ 多摩丘陵（たまきゅうりょう）
東京都南部から神奈川県横浜市北部にかけて広がる丘陵地帯。
- ⑧ 烏川（からすがわ）
群馬県西南部を流れ、利根川（とねがわ）に注ぐ川。
- ⑨ 1反（いったん）（布匹的长度单位）匹
布類の長さの単位。長さ10.6メートル、幅34センチ。およそ成人の衣服を作る分量に相当する。
- ⑩ 紅花染め（べにばなぞめ） 紅花印染
紅花の花びらを用いて繊維を染めること。
- ⑪ 尾長鴨（おなががも） 长尾鴨
「ガンカモ科」の中型の淡水鴨。尾の先が尖り、嘴がやや上に反り返っている特徴がある。水草や水生昆虫などを食べる。
- ⑫ 真鴨（まがも） 绿头鴨
カモの一種。アヒルの原種。北半球に広く分布し、日本付近では、北海道、千島、本州の一部などで繁殖。

新しい言葉

フェンス(fence)	[名]	柵、塀。特に野球のグラウンドを囲む柵や板囲いを指す。/ 栅栏，挡墙，围墙。
発泡スチロール(はっ ぼう styrol)	[名]	気泡を含ませて成形したポリスチレン。断熱材や保護材として使われている。/ 泡沫苯乙烯。
猥雑(わいざつ)	[形動]	乱れ混じること。下品な感じがすること。/ 猥褻 杂乱，下流。
音色(ねいろ)	[名]	その音に独特の感じ。「おんしょく」とも読む。/ 音色。
さらす(晒す)	[他五]	①日光や風雨のあたるままにしておく。/ 暴晒， 风吹雨打。②日光に当てて干す。/ 晒。③布など を水で洗い、日に当てて白くする。また料理 で、材料を水につけてあくを抜く。/ 漂白，漂